

追浜あんず通信

Oppama Anzu Press

第14号 2017年11月 発行:特定非営利活動法人 アクションおっぱま

2017 年度通常総会のご報告

NPO 法人アクションおっぱまの 2017 年度通常総会は、6 月 7 日（金）午後 3 時から午後 5 時、横須賀市追浜行政センター 2 階会議室で開催されました。

社員総数（総会での議決権のある正会員の総数です）41 名、従って過半数は 21 名のところ、当日は 34 名の出席（内 18 名は委任状による書面表決者）で、成立いたしました。

総会では、2016 年度事業報告書、同活動計算書、監査報告、2017 年度活動計画書、同活動予算書、定款の一部変更（特定非営利活動促進法改正に伴う公告の方法の改正）が満場異議無く承認されました。議事終了後、吉田洋子理事の司会で第 2 部「NPO 法人アクションおっぱまのこれからについて～皆でワークショップ～」が行われ、多くの有益なご意見をいただき

ました。

2017 年度の主要事業は、空き家・空き店舗活用プロジェクト、追浜の自然や歴史遺産を活かすフィールドミュージアム構想の検討、第三海堡遺構の保存・活用、おっぱまワイン寄席やこみゆに亭カフェを利用したイベント、各種団体との交流やまちづくりに関わる人材育成など継続して取組むものの他、今年度は、新しい案内板の設置事業、追浜ふるさと写真展の写真募集（おっぱまはっけん倶楽部と協働）等が加わりました。

こみゆに亭カフェでの懇親会にも多くの方にご参加いただきました。今年度もまた、アクションおっぱまへのご協力とご支援をよろしくお願い致します。

(NPO 法人アクションおっぱま理事長 昌子住江)

KGU 空き家プロジェクト活動基地「おっぱまのま」

「KGU 空き家プロジェクト」が追浜南町でリノベーションした物件（11 号で紹介した学生達の活動拠点・地域の方との交流を目的に改修された良心寺所有の平屋）は、2016 年 5 月に一旦お披露目会をしたものの、まだまだ手を加えるべき箇所が多々あり、その後、掘りごたつを製作したり、外壁を張ったり、ペンキ塗りをしたりと、徐々にではありますが、学生達の手で進化しつつあります。建物の名称も、追浜のみんなが集まる居間のような場所を目指して「おっぱまのま」と命名されました。これまで、「七イベント」「こたつ製作ワークショップ」「空き家ツアー」「ペンキ塗りワークショップ」などを開催してきましたが、地域の方々にもっとお越しいただけるように、今後も様々なイベントを開催していく予定です。近々「おかみさんキッチン」（10 月末）、「おっぱま古服市」（11 月末）を開催する予定です。学



七イベント「空き家に浴衣の華が咲く」の様子

生達が若者の視点で追浜のまちに働きかけ、追浜の町とともに成長していきたいと思っております。活動の詳細は、Facebook で紹介しております（「KGU 空き家プロジェクト」で検索）。ぜひ「おっぱまのま」にお越し下さい。

(関東学院大学・人間共生学部

准教授 兼子朋也)

●ら・ぶ・いん おっぱま●

湘南鷹取在住 奥村樹郎 (NPO 法人アクションおっぱま会員)

我が国のNPOの数は2017年8月末現在では51,723を数える(内閣府ホームページ)株式会社数200万社の次に多い団体数ではなかろうか。このうち1,031団体(約2%)は認定NPOと呼ばれ、全国的な税制上の特典を受けている。つまり、我々が認定NPOに寄付すると所得税や住民税が安くなるのである。

我が国は世界で最も少子高齢化、地方都市の過疎化が進んでいる。中でも我が横須賀市の追浜地区はその先頭を走っており、このままではいずれ幽霊都市の一画になってしまう危険性ははらんでいる。そこでこれを防ぎ、追浜地区に活力を取り戻そうと立ち上がったのがNPO法人アクションおっぱまである。創立から7年、アクションおっぱまの活動は次第に活発にな

り、地域に貢献している。しかしまだ十分とはいえ、もっともっと活性化が必要がある。ただし、そのためには更なる会員数の増加と資金が必要である。その方策の一つとして上記の認定NPOへの衣替えが考えられるのではなかろうか。

実際に認定NPOへの申請を行おうとすればかなり高いハードルがあり、数々の課題を克服する必要があると思われるが、これを乗り越えてこそ真に地域への貢献を果たすことができるのではなかろうか。またもし衣替えが却下されたとしても、そのための努力は無駄ではなく、アクションおっぱまの活性化に繋っていくと思います。

●湘鷹みんなの部屋

9月25日(月)、『コミュニティ広場 湘鷹みんなの部屋』の総会が開催されました。昨年8月11日(祝日)のオープニング・セレモニーから1年、初めての総会です。

会員30名、来賓8名——管理・運営にご尽力いただいたみなさん・温かい応援団が揃いました。顔なじみ…仲間たち…同志です。

横須賀市湘南鷹取4丁目、鷹取小学校と「西友鷹取店」から徒歩1分の立地。3000世帯を擁する団地内の中央広場に位置する『みんなの部屋』は、「老若男女すべてが自由に利用できる部屋」を目標にスタートを切りました。運営には全員がボランティア参加!

たまたまその場にいた人が、コーヒー1杯で様々な話題を語りあう——そんな広場が1階にあります。ここでは、子どもも大人も参加できる「藍染教室」や「カービング講座」、現役世代がワイン片手に講演を聞く「カルチャースカフェ」、ギターやアコーディオンによる「歌声喫茶」、「名画鑑賞会」「オーディオ視聴会」、追浜地域包括支援センター主催による「追浜サロ

ン」なども行われています。2階では、「こども英語教室」「大人のための英会話教室」も毎週開かれています。1年間のゆっくりした歩みですが、気が付けばさまざまな年代の住民が集まり始めました。少子高齢化社会において、お年寄りにも子どもたちや青少年にも子育て世代にも「しあわせ」をもたらすきっかけになるような場所づくり——大それた夢かもしれませんが、わたしたちは一歩ずつ進んでいきます。

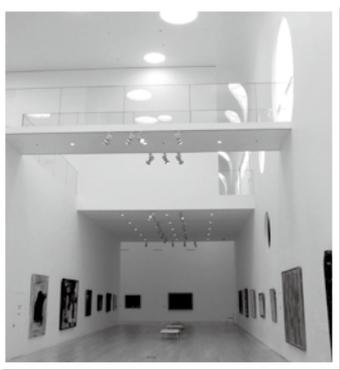
(湘鷹みんなの部屋 評議委員長 藤島紀雄)



藍染教室

● 横須賀美術館一親しみやすく楽しい美術館をめざして

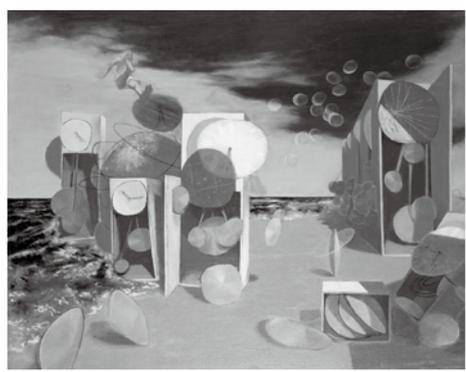
横須賀美術館が、2007年4月に観音崎の海辺に開館して、10年がたちました。そろそろ、館のイメージが定まってきた時期といえるかもしれません。もともと、



開放的な所蔵品展示空間

景観がいい、明るくて開放的、庭の芝生が気持ちいいなど、立地や環境を褒めていただくことは多かったのですが、10年たってみると、家族で絵本の原画展を見に行ったとか、学校や部活で見学したとか、子どもが小さいときイベントに参加したなど、活動内容についての楽しい思い出を語ってくださる方が、ほんとうに増えたなあと感じます。谷内六郎の『週刊新潮』表紙絵や、ゆかりの画家・朝井閑右衛門の油彩画など、所蔵作品についてもご存知の方が増え、嬉しい限りです。

これからも、赤ちゃんと一緒に、忙しいとき、また年齢を重ねてからでも、バスや車でふだん着のまま気軽に行かれる身近な美術館でありたいと思います。2017年最後の展覧会は、京都で活動した画家・伊藤久三郎（1906-77）の回顧展です（11月18日～12月24日、10時～18時、一般800円、12月4日休館）。知られざる日本のシュールレアリスムと、その後の幻想的な絵画の世界をぜひ見にいらしてください。（横須賀美術館学芸員 富田康子）



伊藤久三郎「振り子」（板橋区美術館蔵）

● おっぱまはっけん倶楽部

「写真展」開催に向け

私共、おっぱまはっけん倶楽部は日頃おもしろそうな事象の発掘に努め、イベントに繋げようと頑張っています。この度その一環としてNPO法人アクションおっぱまとの協働にて来年3月に追浜をPRする写真展を横須賀市から補助金と後援を得て開催する運びです。写真展は4年ぶり2回目で、前回とは変えて深浦、榎戸と鷹取山、湘南鷹取にスポットを当てることにしました。そこで歴史写真等を地域の方々にご提供のお願いをしています。一方新しいまちの魅力を引き出すために倶楽部員自ら目ぼしい光景をカメラに収めています。会場も鋭意検討中です。皆の知恵を結集し全力で取り組んでいますのでご期待下さい。（西条良彦）

石仏部会

我がおっぱまはっけん倶楽部の本年の行動計画の一環として、地域史跡の掘り起こしのため「追浜地域内の石仏・石塔等」を調査した。

調査にあたっては、神社、寺院及びその周辺を重点的に歩き、その他の地域に存在する石仏・石塔については、横須賀シティガイド大長氏からも情報提供を仰ぎ、目新しい物は少ないと考えていたが、調査項目が明確になったせいか思いのほか多くの成果があり驚いた。

また、特徴として土地柄か、様々な形状の庚申塔が多くあり、中には、うらが道の案内を兼ねた道標と一体のものも存在し、いにしえの人の知恵が感じられ興味深かった。（澤田栄次）

新入会員の ご紹介

清塚あや子 さん

数年前追浜の七福神めぐりのツアーに参加しましたところ、長い間追浜に住んでいるにもかかわらず追浜について何も知らなかったことに愕然としました。又自分が住んでいる追浜にこんなにも歴史的なものがたくさんあることに愛着を感じ追浜が一層好きになりました。そんな折学生時代の友人からアクション追浜のお誘いがあり入会させていただきました。どの位お役に立っているかわかりませんが、よろしく願いいたします。

第 21 回戦争遺跡保存全国シンポジウム高知大会へ出席して

8月19日(土)より21日(月)、高知市高知会館において表記全国シンポジウムが開催されました。数日



間、全国的にも暑い日が続いていましたが気温も高ければ、参加者の熱気も暑く刺激的でした。全国から集まった約300名の参加者は戦跡保存問題に携わり、長年運動を続けています。初日の総会後の交流会での各方面の紹介を兼ねてのスピーチにはたくさんの情報がありました。中には5,6名の自由参加の若者もいて、中高年の参加者には頼もしく見えたのか人気がありました。当NPO 昌子理事長は横須賀市追浜の貝山地下壕も公開に向けて調整中である、と報告しました。貝山地下壕の公開は全国的にも期待されているようです。

太平洋戦争の遺跡は各地に現存していますが、崩壊し放置されたままの状態、人々の記憶

だけに留めているもの、歴史的価値の高い建築物、まだ発見されず地中にある戦跡等、戦後70有余年間に様々な形を残しています。

これらの現状は、20日(日)の3分科会で発表され、最後は平和への決意を参加者全員の大会アピールで閉会しました。

帰路に就く3日目の22日(月)は現地見学会で前浜掩体壕(南国市史跡指定)耐弾式通信所(高知大学構内)をバスで回りました。掩体壕は、炎天下の稲穂に囲まれた田圃の中に7基が点在しており、1基の掩体壕に飛行機1基を格納し、当時は17基存在していたそうです。

追浜での戦跡保存はというと明治時代の三海堡構造物が現存はしていますが、旧海軍工廠跡碑や明治憲法記念碑等石碑のみで戦争の生々しさも薄れています。しかし、全国からの保存活動参加者の日々の前向きな活動や現状報告をじかに見聞きすると改めて「平和」を持続させて行くことの難しさを感じずにはられません。

(NPO 法人アクションおっぱま副理事長 河村啓子)

「だれでもが安心して暮らせるまち」は、ご家庭の安全から(その2) 子どものおぼれ事故予防

平成27年に東京消防庁管内で救急搬送された0歳から5歳までの子どもがおぼれ事故は35件で、その内訳は、自宅の浴槽が33人、プールが2人と自宅の浴槽が最も多いことが解ります。

この子どもの溺れ事故には「少しくらい…」、「大丈夫だろう…」が共通することが特徴的です。事故が起こる原因の一つには、事故の起こりかたが十分理解されていないことにあるような気がします。

それには、子どもがおぼれるときに声をあげるからわかるだろうという誤解があるからかも知れません。

こどものおぼれ事故は、「ほんの数センチの水」、「あっというまに」そして「静かに」起こることが余り知られていないようです。

このような事故を繰り返さないために、これをきっかけにご家庭の中や親御さんどうしで、

子どもさんを事故から守るためには、そして安全とは何かを考え、話合われてみてはいかがでしょうか。

- Safekidsjapan の Splash! 水の事故予防より
<http://safekidsjapan.org/project/injury_prevention_water/>
- 東京消防庁 HP STOP! 子どもの「おぼれ」より
<<http://www.tfd.metro.tokyo.jp/lfe/topics/stop/stop03.html>>

追浜あんず通信 14号 2017年11月発行

発行 特定非営利活動法人アクションおっぱま
発行人 昌子住江
編集 NPO 法人アクションおっぱま編集委員会

編集後記

- 『相鷹みんなの部屋』も多くの支え手を得て地域に根を下ろした感じです。「おっぱまのま」も動き始めました。点から線、さらに面へとその力が繋がることを期待したいと思います。(昌子住江)
- 暑い夏に又戻ってきたと思いましたが、今度は雨と共に冷気がやってきました。皆様体調は大丈夫でしょうか。今年の夏は足のケガで本当に暑い夏を過ごしました。今は元気にやっています。追浜がもっともっと元気になることを願っています。(吉田洋子)
- 台風一過の佐渡島で、突風に負けずしっかりと踏み張って歩いてきました。木枯らし一番が吹きよいは冬です。風邪にも負けずこの冬も乗り切っていきたいものです。(内野忠浩)
- 10月は二度の台風のおかげで週末を静かに過ごしましたが、各地での被害は悲しい出来事でした。NPOのホームページをリニューアルしました。是非ご覧ください。(河村啓子)